

一 般 (個 人) 質 問 通 告 一 覧 表

令和6年第1回笠岡市議会定例会

3月5日・6日(2日間)

通 告 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 者
1 桑田 昌哲	1 地元企業の支援について	<p>2020年5月、関係閣僚と経団連会長、日商會頭、聯合会長をメンバーとする「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」において「パートナーシップ構築宣言」の仕組みが創設されました。</p> <p>2024年1月には経済産業省中小企業庁から、令和5年度におけるパートナーシップ構築宣言取組状況アンケートの結果概要が公開されました。</p> <p>これは、宣言企業の取組状況を把握し、実効性の向上につなげるため、下請け企業への調査及び宣言企業への調査を実施したものです。</p> <p>取引適正化の重点5分野に関する取組など、目を引く内容もあります。以下お尋ねします。</p> <p>(1) 本市は「パートナーシップ構築宣言」をどのように考え、どこに注目されていますか。</p> <p>また、今後の対応についてお尋ねします。</p> <p>(2) 就労の形が少しずつ変化する中、企業における外国人労働者の確保について、本市ではどのように支援していくのかお尋ねします。</p>	関係部長 〃
	2 笠岡市の防災について	<p>令和6年1月1日に発生した能登半島地震のように、私たちが暮らしている地域でも、いつ何が起こるか分かりません。そのため、笠岡市で起こりうる災害をしっかりと認識しておくことが大切です。</p> <p>笠岡市のホームページに掲載されている、岡山県が作成した液状化危険度分布図を、「笠岡市総合ハザードマップ」(冊子版)にも掲載することはできないかお尋ねします。</p>	関係部長

<p>2 大本 邦光</p>	<p>1 視覚障害者のための「音声コード」の利用促進について</p> <p>2 食品ロス削減への住民運動の推進について</p>	<p>全ての国民が、障害の有無によって分け隔たられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的として、「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」が2022年5月に施行されました。</p> <p>ところが、今でも視覚障害者にとっては、情報の取得や利用に多くの苦勞があります。視覚障害の方は必ずしも点字を読めるわけではなく、多くの方は主に音声や拡大文字によって情報を得ています。文字情報を音声にする方法は、補助者による代読やパソコンの音声読上ソフトのほか、文字をコード情報に変換し、活字文書読上装置を使って音声化する方法があります。</p> <p>事実、視覚障害の手帳を持っている方のうち、点字が読める方はわずか1割だそうです。また、他の疾病や高齢化などで文字を読みづらい方は約160万人との報告もあります。</p> <p>情報の取得やその利用、意思疎通ができる社会の実現を目指した法整備も整っている中、本市から市民に送付される公的な通知等、音声コードの普及を進める重要性についてお尋ねします。</p> <p>日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」が年間約612万トンとされています。実際に食品ロスの割合を見ると、食品関連事業者が全体の55%で、残りの45%は家庭から出されています。</p> <p>食品ロス削減は、気候変動対策としても重要であり、環境に及ぼす影響は決して少なくありません。</p> <p>大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から、食品ロス削減への住民運動のさらなる推進は重要であると考えます。</p>	<p>関係部長</p>
----------------	---	---	-------------

		<p>(1) 本市における食品ロスを削減する食品流通サービスの展開についてお尋ねします。</p> <p>(2) 在庫食品や未利用食品の寄付の拡大について本市の取組状況をお尋ねします。</p> <p>(3) コミュニティフリッジ(公共冷蔵庫)設置支援に係る対応策についてお尋ねします。</p> <p>(4) 出荷や加工前に廃棄されている地元地域の食材の活用等についてお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
	<p>3 災害ケースマネジメントの取組について</p>	<p>能登半島地震発生から2か月がたった今なお1万人超が避難所に身を寄せています。復旧・復興への取組も進む中で、今後、生活再建から取り残される被災者が出ないようにどう支援するかが課題となっています。</p> <p>国は被災者一人一人に寄り添い、個別の状況に応じて支援する「災害ケースマネジメント」を実施する方針を示しており、注目されています。</p> <p>被災者一人一人が抱える課題はそれぞれ違います。その解決へ向け、様々な制度を組み合わせたオーダーメイド型の支援を行う仕組みづくりについて、市の見解をお示してください。</p>	<p>関係部長</p>
<p>3 仁科 文秀</p>	<p>1 第3次笠岡市地域福祉計画に関して</p>	<p>令和5年12月、すべての人が安心して暮らし続けられるように、さらなる地域福祉の推進を図ることを目的として「第3次笠岡市地域福祉計画案」が作成され、パブリックコメントを経て、本年4月から計画が実施に移される。</p> <p>急速な少子高齢化や核家族化が進展し、孤独・孤立の問題、認知症高齢者の問題など、多くの課題に直面している。</p> <p>(1) 社会福祉協議会各支部、民生委員、愛育委員、ボランティア団体など、地域には多くの社会資源があり、地域住民のために日々活動されている。高齢化の進展とともに担い手の年齢が高くなり、また全体的に後継者がいないことも大きな課題である。</p>	<p>関係部長</p>

		<p>本市は、このような現状に対し、どう対策を講じるのか、考えを尋ねる。</p> <p>(2) 地域福祉に関するアンケートでも、高齢者が自宅で生活を続けていくためのサービスとして、移動手段の確保、買い物代行支援などの希望の割合が高くなっている。</p> <p>本市には、タクシーチケット助成制度、市民ボランティアによる送迎、神島内浦地区でテストをした予約型乗合交通がある。</p> <p>今後、それぞれの制度をどのように進め、喫緊の課題である移動手段についての市民満足度を高めていくのか尋ねる。</p> <p>(3) 福祉に関するアンケートでは、39歳以下の若年層のうち、「たまに、ときどき、しばしば」を合計して、48.2%の人たちが孤独感があると答え、孤独感を感じる割合が他の年齢層と比較して高くなっている。また、女性より男性がその割合が高い。</p> <p>こうした現状を本市としてどう認識し、どのような対策を講じていくのか尋ねる。</p> <p>(4) 高齢者や障害者の一人暮らしなど、孤立しやすい人たちへの寄り添いや支援については、さらに重要性が増している。</p> <p>本市としては、どう取り組むのか尋ねる。</p> <p>残念ながら、笠岡市は県内でも人口減少率の高い市町村の一つになっており、本当に活力ある住みよいまちになるのか、市民の間では不安感が強い。</p> <p>(1) 日本創成会議から「消滅可能性都市」の烙印を押された笠岡市。確実にそれに向かって進んでいるように見える。</p> <p>本市の認識と、その不名誉な評価をどう跳ね返していくのか尋ねる。</p> <p>(2) どの自治体の新年度予算を見ても、「少子</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市長</p> <p>関係部長</p>
2	将来にわたっての住みよい笠岡の実現に向けて		

		<p>化対策」の文字が目立つ。</p> <p>本市の将来を決めかねない少子化問題について、本市の新たな取組、対策を尋ねる。</p> <p>(3) 笠岡市の発展のためには、まず J R 笠岡駅やその周辺の整備、商店街復活に力を入れてほしいという市民の声は強い。</p> <p>本市の今後の取組、考えを尋ねる。</p> <p>(4) 一般国道 2 号笠岡バイパス工事や、篠坂スマートインターチェンジ整備が進む中、市民の懸念は、これらの周辺に農業振興地域が極めて多いことである。農振除外に向けて本市はスピード感をもって動き始めていると認識しているが、現状と今後の取組を尋ねる。また、目標達成に向けた戦略など、ロードマップについても尋ねる。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p>
4 原田 てつよ	1 民間救急事業者との協定について	<p>全国的に救急搬送が増え続けていますが、その半数近くは軽症患者となっています。そうした中で、民間救急事業の存在が、患者搬送において一つの変化となっていると仄聞します。</p> <p>民間救急とは、緊急性が低い傷病者の搬送や、転院、入退院、通院のほか、冠婚葬祭や旅行、帰省など、病気やケガなどで移動が難しい方を支援する民間の事業であり、高齢社会や医療体制の変化により誕生した事業であります。</p> <p>人工呼吸器や吸引器、A E D、各種モニター等が装備され、転院等で医療処置が必要な人の搬送時には看護師が同乗し、搬送元の医師の指示で、点滴や酸素投与の管理、痰の吸引等の医療行為が行われます。</p> <p>民間救急との連携を図ることにより、救急隊員の負担軽減につながるのではないかと考えます。</p> <p>また、平成 30 年の西日本豪雨の災害時に任意団体として県内で活躍した災害支援団体、民間</p>	<p>関係部長</p>

	<p>2 笠岡諸島の振興・活性化について</p>	<p>救急事業者は、この度の能登半島地震においても早くから現地入りし、災害時における官民連携の大切さを強く訴えています。</p> <p>さらに、民間救急事業者のサービスの中には、余命宣告を受けた患者の最後の願いを叶えるという搬送業務もあります。</p> <p>緊急時、災害時だけでなく、福祉的観点からも、民間救急事業者との協定により、コロナ禍で希薄になった家族との関係を取り戻し、後悔のない時間を過ごす役割を担ってもらえるのではないかと感じています。</p> <p>民間救急事業者との協定について、本市の考えをお尋ねします。</p> <p>令和元年5月「知ってる！？悠久の時間が流れる石の島～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～」として日本遺産に認定され、今年で6年目となります。</p> <p>本年が、日本遺産認定継続の審査、評価を受ける最後の年であると認識しています。</p> <p>笠岡諸島は笠岡市の宝であり、観光の目玉であるといわれ続け、令和3年3月に策定された「笠岡市観光振興ビジョン」でも、日本遺産認定後の動き、課題が数々取り上げられています。</p> <p>笠岡市総合計画をはじめ様々な計画が策定される中で、「笠岡諸島の振興・活性化」という言葉があらゆるところで使われています。</p> <p>(1) 笠岡諸島の振興・活性化とは何かお尋ねします。</p> <p>(2) 日本遺産認定について、また笠岡諸島の振興・活性化について、島しょ部の方々と意見交換をされたことはあるかお尋ねします。</p> <p>(3) 島民、観光客の移動手段は船しかありません。</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
--	--------------------------	--	-----------------------------

		<p>令和5年8月、三洋汽船の白石島・笠岡(伏越)間のフェリー運航休止を受け、白石・島づくり委員会より市長へ陳情書を提出しました。</p> <p>陳情書には、「行政・航路事業者・地域住民が一体となって協働できる取組を推進していただきたい」とありました。</p> <p>現時点での市長の考えをお尋ねします。</p>	
5 山本 聡	<p>1 地方創生， 地域を変える</p> <p>2 魅力的なまちづくり</p>	<p>社会動態の改善に向けた施策において、雇用確保のための職場の提供，すなわち企業誘致，起業の後押し，インキュベーターとしての行政の役割など，地元で働く環境の整備や住みやすさへのアプローチが地域の持つ魅力である。</p> <p>我がまち笠岡は，広大な干拓地を結節点として島しょ部と北部の稲作地帯が南北に連なる岡山県南西部の拠点としていかに存続していくべきか真価が問われている。</p> <p>(1) 一次産業，二次産業，三次産業において，既存産業のブラッシュアップは必要か尋ねる。</p> <p>(2) 広域100万人商圏のニーズについて尋ねる。</p> <p>(3) 事業者育成の観点から，地域通貨(電子通貨)，地域活性化ファンド，創業支援について尋ねる。</p> <p>(4) 廃棄物(牛糞，食物残渣)の再生，利活用について尋ねる。</p> <p>(5) 観光資源開発(地域再発見)について尋ねる。</p> <p>住みたいまち，子供を産み育てたいまち，ふるさととして自慢したいまち，住む地域の魅力の定義は様々である。</p> <p>多様化する現代社会において，高齢化が進み，少子化に拍車がかかる人口減社会を生き抜いた</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

		<p>め、民力を維持し、公共サービスの質を保ち、幸福度をある程度実感できる処方箋とはいったい何か、住環境や教育環境を含めた地域全体の総合的な魅力として、以下尋ねる。</p> <p>(1) ネウボラ制度等、子育て支援の充実について</p> <p>(2) 奈義町は、日本だけでなく、他国からも注目されるほどの出生率を誇っているが、本市の出生率向上への取組について</p> <p>(3) 創造性豊かな人材の育成プログラムの創出について</p> <p>(4) 広い視野からの地域社会の構築について</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
6 真鍋 陽子	1 防災について	<p>(1) 笠岡市内の公共施設耐震化における優先順位についてお尋ねします。</p> <p>(2) 市本庁舎の耐震化についてどのように考えているのかお尋ねします。</p> <p>(3) 「木造住宅の耐震化」補助制度の活用状況についてお尋ねします。</p> <p>(4) 東日本大震災では小中学校、高校で校舎の窓ガラスが割れるなどの被害が相次いだことから、文部科学省は全国の学校に建物だけではなく窓についても地震対策が必要であると呼びかけています。</p> <p>市内校舎の窓ガラスの地震対策について進捗状況をお尋ねします。</p> <p>(5) 災害弱者である障害のある方々の支援について、幼児期、児童期から意識を高めていくために、笠岡市相談支援ファイル「かけはし」を活用できないかお尋ねします。</p> <p>(6) 妊婦や乳幼児は、「災害弱者」として高齢者や障害のある方と同様に配慮が必要です。市としての対策についてお尋ねします。</p> <p>(7) 在宅避難に対する支援体制についてお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

		<p>(8) 福祉避難所の整備状況についてお尋ねします。</p> <p>(9) 国は、ペットと一緒に避難する「同行避難」を推進する指針を作っていますが、周囲に気兼ねし、ペットとの同行避難をためらう飼い主もいます。</p> <p>笠岡市ではペットの避難について理解は進んでいるのか、またペットと共に避難することを想定している避難所はあるのかお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p>
2	令和6年4月組織見直しについて	<p>(1) 障害者、生活困窮者、引きこもりの方に関する就労支援を担当する部署として「みんな就労支援センター」が新設されます。</p> <p>就労に困難さを抱えている方々をどのようにアセスメントし、就労につなげていくのか、具体的な対策、体制についてお尋ねします。</p> <p>(2) 令和3年に「障害者差別解消法」が改正され、令和6年4月1日から、事業者による障害のある方への合理的配慮の提供が義務化されます。</p> <p>なんらかの困難さを抱えている方々が就労に結び付くために、笠岡市として合理的配慮の提供やその理解について、いかに取り組むのかお尋ねします。</p> <p>(3) 岡山県みどりの食料システム戦略基本計画に基づき、笠岡市内においても有機農業取組面積拡大や販路拡大を計画的に促すため、専門組織の立ち上げや担当職員の配置は可能かお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>市長</p>
3	学校教育について	<p>(1) 学校、家庭、地域をつなぐ連絡システム「すぐーる」の活用状況をお尋ねします。</p> <p>(2) 岡山県議会では、岡山市の高校生による「公立高校のトイレに生理用品を置くこと</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p>

		<p>を求めた陳情」が、2023年7月全会一致で採択されています。</p> <p>笠岡市内の小中学校において、トイレに生理用品を置くことは可能かお尋ねします。</p>	
		<p>(3) 笠岡市における、支援が必要な外国人の子供の人数をお尋ねします。</p>	関係部長
		<p>(4) 支援が必要な外国人の子供に対する支援体制についてお尋ねします。</p>	〃
		<p>(5) 文化系部活動の地域移行について進捗状況をお尋ねします。</p>	〃
		<p>(6) 小さな映画館プロジェクトや、笠岡市国際交流協会、あるいは公民館における多彩な活動などを、児童生徒の文化系部活動とマッチングすることはできるかお尋ねします。</p>	〃
		<p>(7) 金浦中学校では生徒主体で校則を見直すなど、生徒の自主性が尊重される取組が始まっています。</p> <p>また、笠岡小学校での自由進度学習など、笠岡市内における新しい公教育の取組が進んでいます。</p> <p>今後、様々な新しい取組を、いかに市内の小中学校に広げていくのかお尋ねします。</p>	教育長
		<p>(8) 文部科学省が提唱している「令和の日本型学校教育」は、理解が進んでいる地域と進んでいない地域では格差が激しいと言われています。</p> <p>笠岡市内においてはいかに実装していくのか、また具体的なタイムテーブルはあるのかをお尋ねします。</p>	〃
		<p>(9) 地域の方々と一緒に子供の幸せについて考えたいという保護者が中心となった実行</p>	市長 教育長

	<p>4 人づくり・人つなぎ・まちづくりについて</p>	<p>委員会が立ち上がり，令和6年2月12日，笠岡市内で映画「夢みる小学校」の上映会が行われました。200名ほどの参加があり，アンケートの回答率は9割近くありました。「すごい学校だ。」，「公立校のイメージが変わった。」，「子供を信じようと思った。」など多くの感想が集まりました。また，「こんな学校に行きたかった。」，「こんな学校が増えてほしい。」，「笠岡の学校もこんなふうになってほしい。」などの声も，子供や保護者，ご年配の方など幅広い世代の方々から集まっています。</p> <p>市長，教育長に映画の感想をお尋ねします。</p> <p>(1) 令和4年3月定例会の個人質問で，高齢者の資格取得にかかる経費を一部補助する制度について尋ねたところ，「先進自治体の事例を研究していきたい」との答弁がありました。</p> <p>その後の進捗状況をお尋ねします。</p> <p>(2) 市内で活動する各種団体と，活動を求める市民の方々が，いかに繋がっていくことができるのか，市としてできるサポートについてお尋ねします。</p> <p>(3) 少子高齢化が加速度的に進んでいる一方で，人生100年時代という言葉が定着化してきています。</p> <p>人生100年時代，笠岡市が目指すまちの姿について，ビジョンをお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>市長</p>
	<p>5 移住・定住・関係人口政策について</p>	<p>(1) 新婚等世帯家賃助成金の年齢要件を外すことについて，検討はされたのかお尋ねします。</p> <p>(2) 若者会議拠点施設ポルカドットを，学習スペースなどとして広く活用する取組の進</p>	<p>市長</p> <p>関係部長</p>

		<p>捗状況についてお尋ねします。</p> <p>(3) 子供の出生届を出した時にお渡しする記念品について、これまでに検討されたことがあるのかお尋ねします。</p> <p>(4) 笠岡市における令和6年1月末現在の外国人の総数は808人です。社会動態において外国人の数は増加傾向にあります。</p> <p>外国人と共生できる地域社会の構築に向け、今後の課題についてお尋ねします。</p> <p>(5) 令和4年9月定例会の個人質問で、デジタル地域通貨を活用した地元企業支援と地域コミュニティの形成、行政コストの削減について質問したところ、マイナンバーカードを基軸としての活用について市長から答弁がありました。</p> <p>マイナンバーカードの普及率が高まっている現在、デジタル地域通貨、あるいはデジタルポイントの導入についての検討は進んでいるのかお尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>市 長</p> <p>〃</p>
--	--	---	---------------------------------